

厚生労働大臣 舩添 要一 殿

地方独立行政法人大阪府立
理事長 高杉

大阪府立成人病センターの業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	32人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	107人	67人	152.2人	看護業務補助	29人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	2人	1.1人	理学療法士	3人	臨床検査技師	67人
薬剤師	18人	7人	23.5人	作業療法士	人	衛生検査技師	4人
保健師	4人	人	4.0人	視能訓練士	人	その他	人
助産師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	436人	9人	442.6人	臨床工学技士	3人	医療社会事業従事者	3人
准看護師	5人	5人	8.6人	栄養士	人	その他の技術員	2人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	110人
管理栄養士	2人	1人	3.0人	診療放射線技師	36人	その他の職員	88人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	421.9 人	0 人	421.9 人
1日当たり平均外来患者数	1103.3 人	0 人	1103.3 人
1日当たり平均調剤数	入院 513.5剤	外来 103.7剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
インプラント義歯	有・無	人
顎顔面補綴	有・無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	①・無	36人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	人
膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	㊦・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテナーメドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	㊦・無	151人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
カフェイン併用化学療法	有・無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	1人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	3人
・多発性硬化症	8人	・ウェグナー肉芽腫症	0人
・重症筋無力症	16人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	41人
・全身性エリテマトーデス	1人	・多系統萎縮症	1人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	21人	・膿疱性乾癬	0人
・サルコイドーシス	6人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・筋萎縮性側索硬化症	0人	・原発性胆汁性肝硬変	18人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	3人	・重症急性膵炎	0人
・特発性血小板減少性紫斑病	41人	・特発性大腿骨頭壊死症	0人
・結節性動脈周囲炎	1人	・混合性結合組織病	2人
・潰瘍性大腸炎	23人	・原発性免疫不全症候群	0人
・大動脈炎症候群	5人	・特発性間質性肺炎	0人
・ビュルガー病	1人	・網膜色素変性症	6人
・天疱瘡	0人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	16人	・原発性肺高血圧症	0人
・クローン病	0人	・神経線維腫症	3人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・パーキンソン病関連疾患	32人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	4人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	11人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	9 回	
剖検の状況	剖検症例数 27 例	剖検率 18.5 %

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
地域がん登録精度向上と活用に関する研究	津熊 秀明	調査部長	23,000	補委	厚生労働省
保健・医療機関受診者を対象とした禁煙支援方法の開発と評価に関する研究	田中 英夫	調査課長	12,050	補委	厚生労働省
喉頭機能を温存した頭頸部がんの標準的治療法の確立に関する研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科主任部長	12,050	補委	厚生労働省
頭頸部がん治療の標準化に関する研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科主任部長	800	補委	厚生労働省
日本人女性の乳がん発症リスクに対する新しいロジスティック回帰モデルの臨床への応用	菰池 佳史	乳腺・内分泌外科副部長	11,500	補委	厚生労働省
骨転移の標準的治療指針確立の研究	荒木 信人	整形外科主任部長	1,200	補委	厚生労働省
臨床病理像からみた早期肺がんの治療法に関する研究	児玉 憲	副院長	1,200	補委	厚生労働省
がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究	今岡 真義	総長	800	補委	厚生労働省
大腸がん術後感染症予防に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	800	補委	厚生労働省
臨床的予後因子による肝転移予測	大植 雅之	消化器外科副部長	1,000	補委	厚生労働省
地域がん専門診療施設のソフト面の整備拡充に関する研究	淡田 修久	副院長	1,000	補委	厚生労働省
乳房温存療法の適応の適正化の検討	稻治 英生	乳腺・内分泌外科主任部長	1,000	補委	厚生労働省
進行肺がんに対する化学療法	今村 文生	呼吸器内科主任部長	900	補委	厚生労働省
がん登録における情報ネットワークの活用に関する研究	井岡 亜希子	調査課主査	1,500	補委	厚生労働省
がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究	中山 富雄	疫学課長	800	補委	厚生労働省
成人難治性造血器腫瘍に対する非血縁者間の同種造血肝細胞移植法の確立に関する研究	平岡 諒	血液化学療法科主任部長	1,000	補委	厚生労働省
肺がんの臨床病理学的研究	東山 聖彦	呼吸器外科主任部長	700	補委	厚生労働省
がん治療におけるIRVの技術向上と標準化に関する研究	杉原 英治	放射線診断科医長	500	補委	厚生労働省
効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度化に関する研究	大島 明	がん相談支援センター所長	1,500	補委	厚生労働省
革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究	中山 富雄	疫学課長	21,300	補委	厚生労働省
新しい診断機器の検診への応用とこれらを用いた診断制度の向上に関する研究	中山 富雄	疫学課長	3,000	補委	厚生労働省
がん罹患、死亡動向の実態把握の研究	井岡 亜希子	調査課主査	1,200	補委	厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	井岡 達也	検診部消化器検診科副部長	3,000	補委	厚生労働省
院内がん登録の標準化と普及に関する研究	津熊 秀明	調査部長	500	補委	厚生労働省
がん患者の医療機関受診に関する動態調査	津熊 秀明	調査部長	9,700	補委	厚生労働省
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究	荒木 信人	整形外科主任部長	2,100	補委	厚生労働省
頭頸部がんの頸部リンパ節転移に対する標準的手術法の確立に関する研究	藤井 隆	耳鼻咽喉科副部長	1,500	補委	厚生労働省
WEB版がんよろず相談システムの構築と活用に関する研究	柏木 雄次郎	脳神経科部長	200	補委	厚生労働省
進行胃がんの生存率を向上させる標準的治療法の開発に関する研究	宮代 勲	消化器外科副部長	500	補委	厚生労働省
早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究	飯石 浩康	診療局長兼消化器内科部長	800	補委	厚生労働省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
早期前立がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	宇佐美 道之	泌尿器科主任部長	300	補委	厚生労働省
切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科主任部長	600	補委	厚生労働省
限局型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科主任部長	1,000	補委	厚生労働省
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科主任部長	1,000	補委	厚生労働省
大腸がん肝転移症例の術後補助化学療法に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	600	補委	厚生労働省
再発高危険群の大腸がんに対する術後補助化学療法に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	700	補委	厚生労働省
臨床病期Ⅲの下部直腸がんに対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	大植 雅之	消化器外科副部長	1,500	補委	厚生労働省
第Ⅳ期食道がんに対する標準的治療法の確立に関する研究(H17-がん臨床一般-007)	矢野 雅彦	消化器外科主任部長	500	補委	厚生労働省
肉腫および悪性中皮腫を標的破壊する腫瘍溶解性ウイルスベクターのシードストックおよび臨床ロットの製造とその安全性・有効性に関する研究	高橋 克仁	研究所病態生理学部門長	18,788	補委	厚生労働省
疾患関連たんぱく質解析研究事業	今岡 真義	総長	19,500	補委	厚生労働省
C型肝炎の状況・長期予後の疫学像の解明に関する研究	田中 英夫	調査課長	10,000	補委	厚生労働省
がんの早期診断および予後診断に役立つ腫瘍マーカーの開発	東山 聖彦	呼吸器外科主任部長	350	補委	厚生労働省
BCG-CWを用いた抗がん免疫応答の再構築とそのメカニズム	赤澤 陸	研究所分子遺伝学部門	2,000	補委	文部科学省
癌が分泌する乳酸によって免疫応答が増強されるメカニズムの解明	志馬 寛明	研究所分子遺伝学部門	2,000	補委	文部科学省
オートファジーを介した放射線増感作用の研究	遠藤 洋子	研究所生化学部門	1,000	補委	文部科学省
転写因子制御による遺伝子放射線治療	中村 聡明	放射線治療科	1,600	補委	文部科学省
核内ドメインへ蛋白をチャットする新規蛋白MORC3とそのファミリー	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門長	1,300	補委	文部科学省
骨軟部腫瘍の進展に関与する分子SSXを標的とした治療法の開発	吉岡 深子	研究所生物学部門主任研究員	1,300	補委	文部科学省
難治性肉腫および悪性中皮腫に対する標的遺伝子療法の開発	山村 倫子	研究所主任研究員	1,000	補委	文部科学省
IGF・PK・mTORシグナルの抑制を中心とした癌の低酸素耐性機構の解明	井上 正宏	研究所生化学部門長	2,100	補委	文部科学省
転写因子PBX1を介した抗アポトーシス経路と転移との関連の解明	富田 裕彦	病理・細胞診断科主任部長	1,800	補委	文部科学省
骨芽細胞の運動制御と臨床応用	伊藤 和幸	研究所生物学部門長	1,600	補委	文部科学省

計52件

- (注)
- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 - 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 - 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Endoscopy 2007; in press.	Infrared endoscopic system for bleeding point detection during endoscopic resection .	Ishihara R	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy. 2007; in press.	Endoscopic resection of the esophageal squamous cell carcinoma overlying leiomyoma.	Ishihara R	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy. 2007; in press.	Local recurrence of large squamous cell carcinoma of the esophagus after endoscopic resection.	Ishihara R	消化器内科
Cancer 2008; in press.	Long-term outcome of esophageal mucosal squamous cell carcinoma without lymphovascular involvement after endoscopic resection.	Ishihara R	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy. 2008; in press.	Quantitative analysis of the color change after iodine staining for diagnosing esophageal high-grade intraepithelial neoplasia and invasive cancer.	Ishihara R	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy. 2008; in press.	Comparison of endoscopic mucosal resection and endoscopic submucosal dissection for en bloc resection of early esophageal cancers in Japan.	Ishihara R	消化器内科
Oncology 2008;73(1-2):65-7	Phase II Study of a combination of irinotecan and S-1 in patients with	Noriya Uedo	消化器内科
Am J Gastroenterol. 2007 Aug;102(8):1610-6.	Effect of Proton-Pump Inhibitor or H2 Receptor Antagonist on Prevention of Bleeding from the Ulcer After Endoscopic Submucosal Dissection of Early Gastric Cancer: A Prospective Randomized Controlled Trial	Noriya Uedo	消化器内科
Digestive Endoscopy (2007) 18 (Suppl. 1), S131-S136	DIAGNOSIS OF COLONIC ADENOMAS BY NEW AUTOFLUORESCENCE IMAGING SYSTEM: A PILOT STUDY	Noriya Uedo	消化器内科
Gastrointest Endosc. 2007 Jul;66(1):186-93	Endoscopic submucosal dissection with insulated-tip knife for large mucosal early gastric cancer: a feasibility study (with videos)	Yoji Takeuchi	消化器内科
Int J Cancer. 2007 Sep 15;121(6):1182-9	Re-expression of sonic hedgehog and reduction of CDX2 after Helicobacter pylori eradication prior to incomplete intestinal metaplasia	Uedo N	消化器内科
Jpn J Clin Oncol. 2007 Jul;37(7):521-7	Phase I/II Study of CPT-11 plus UFT in Patients with Advanced/Recurrent Colorectal Cancer: Osaka Gastrointestinal Cancer Chemotherapy Study Group (OGSG): Protocol 0102.	Tomita N	消化器内科
Endoscopy, UCTN (2007)	Flat gastric epithelial neoplasm detected by endoscopic screening with autofluorescence imaging video endoscopy	Uedo N	消化器内科
癌の臨床 54: ;2008.	高齢者表在食道癌に対する内視鏡切除術の有用性	石原立	消化器内科
消化器外科 2008;in press.	食道癌、ESDの適応と手技	石原立	消化器内科
胃と腸 42:1309-1315;2007	食道m1,m2癌EMR後の長期成績	石原立	消化器内科
Gastroenterol endosc 2007;in press.	赤外線電子内視鏡の進歩と胃癌診断における有用性の検討	石原立	消化器内科
臨床消化器内科 23:15-20;2008	病変径による表在食道癌に対するEMRとESDの使い分け	石原立	消化器内科
胃と腸 42 1477-1482, 2007	大腸SM癌の内視鏡摘除後のfollow up	東野晃治	消化器内科
胃と腸42; 1635-45 2007	未分化型混在早期胃癌の臨床的特徴と問題点 範囲診断を中心に	竹内洋司	消化器内科
日本消化器病学会誌 2008; in press	内視鏡治療 -胃癌治療ガイドラインと適応拡大	竹内洋司	消化器内科
胃と腸 第43巻 第1号 44-50	早期胃癌ESD適応拡大病変に対する不完全切除の要因と対策	上堂文也	消化器内科
J Immunology 180, 2008.	Maintenance of long-lived plasma cells and serological memory despite mature and memory B cells depletion during CD20 immunotherapy.	Uchida J	呼吸器内科
肺癌 47. 2007.	肺癌術前リンパ節転移診断におけるコンベックス走査式超音波気管支鏡ガイド下生検 (EBUS-TBNA) の実際	今村文生	呼吸器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肺癌 47. 2007.	気管支鏡ビデオスコープを使用する蛍光気管支内視鏡画像について	今村文生	呼吸器内科
がん治療のあゆみ 27. 9-13. 2008.	III期非小細胞肺癌に対するシスプラチンとビンレルビンと3D concomitant boost法による放射線治療の同時併用療法の第II相試験	上野清伸	呼吸器内科
Intn J Hematol 86: 269-274 2007;	Unification of Hematopoietic Stem Cell Transplantation Registries in Japan and Establishment of the TRUMP System	Hiraoka A	血液・化学療法科
Intn J Hematol 86: 192-195 2007;	Donor cell-derived leukemia with t(7;11)(p15;p15) after a cord blood transplantation in a patient with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Hiraoka A	血液・化学療法科
Bone Marrow Transplant 40 251-259 2007;	Prophylactic fresh frozen plasma may prevent development of hepatic VOD after stem cell transplantation via ADAMTS13-mediated restoration of von Willebrand factor plasma levels.	Hiraoka A	血液・化学療法科
成人病と生活習慣病 37; 147-151 2007	外来化学療法治療継続中の日常診療注意点。	吉田均	血液・化学療法科
臨床血液 1462-1469 2007;	本邦における造血細胞移植登録の一元化と「移植登録一元管理プログラム (TRUMP)」の作成。	平岡諦	血液・化学療法科
J Mol Cell Cardiol. 43 : 54-62 (2007. Jul)	Carbacyclin induces carinitine palmitoyltransferase-1 in cardiomyocytes via peroxisome proliferators-activated receptor (PPAR) delta independent of the IP receptor signaling pathway.	Masaki M	循環器内科
Hypertens Res. 30(10) : 913-919 (2007. Oct)	Long-term oral administration of dipyridamole improves both cardiac and physical status in patients with mild to moderate chronic heart failure: a prospective open-randomized study.	Awata N	循環器内科
体外循環技術. 35: 23-28 (2008)	下大静脈浸潤癌手術における対外循環方法の検討、下静脈腫瘍栓を伴う腎癌手術におけるV-Vバイパス循環補助の有用性について。	和泉匡洋	循環器内科
Anal Biochem. 36(1):37-50 (2007)	Novel Fucogangliosides found in human colon adenocarcinoma tissues by means of glycomic analysis.	Noura S	消化器外科
Biochem Biophys Res Commun. 35(3):579-586 (2007)	Evaluation of laser microdissection as a tool in cancer glycomic studies.	Ohue M	消化器外科
Surg Endosc. 21(6):929-934 (2007)	Evaluation of the technical difficulty performing laparoscopic resection of a rectosigmoid carcinoma: visceral fat reflects technical difficulty more accurately than body mass index.	Seki Y	消化器外科
Dis Colon Rectum. 50(3): 389-394 (2007)	Castleman's disease of the rectum: report of a case.	Ohue M	消化器外科
Am J Surg. 19(1):21-25 (2007)	Total splenic vein thrombosis after laparoscopic splenectomy: a possible candidate for treatment.	Sekimoto M	消化器外科
Ann Surg. 24(5) :799-805 (2007.11)	Liver Perfusion Chemotherapy for Selected Patients at a High-Risk of Liver Metastasis After Resection of Duodenal and Ampullary Cancers.	Ohigashi H	消化器外科
日本病院会雑誌. 54(6) : 792-792(2007)	大阪府立成人病センター設立の趣旨・沿革と現状	今岡真義	消化器外科
外科治療. 97(3) :279-284 (2007)	膵癌外科治療の現状と将来	石川 治	消化器外科
跡見 裕, 上村直美, 白鳥敬子, 正木直彦. (文栄堂) 285-287(東京)	「臨床に直結する肝・胆・膵疾患治療のエビデンス」	石川 治	消化器外科
癌の臨床. 53(1) :17-21 (2007)	cStage III, IV食道がんに対する集学的治療	矢野雅彦	消化器外科
臨床消化器内科. 22(8) : 1117-1121(2007)	センチネルリンパ節生検の日常臨床への導入:多施設共同研究 (1) 日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)	宮代 勲	消化器外科
日本外科感染症学会雑誌. 4(2) :157-163(2007)	当センターにおける肝胆膵手術後手術部位感染の現状と課題	山田晃正	消化器外科
日本外科感染症学会雑誌. 4(3) :261-266(2007)	当センターにおける肝切除術後SSIの現状と対策	山田晃正	消化器外科
医学のあゆみ. 22(1) :69-72(2007)	膵癌に対する放射線化学療法-Neoadjuvant chemoradiationの試み-	大東弘明	消化器外科
癌と化学療法. 34(12) : 2056-2058(2007)	広大な大動脈周囲リンパ節転移を伴うS状結腸癌の長期生存の1例.	荻野崇之	消化器外科
日消外会誌. 40(12) :1972-1976(2007)	直腸肛門部癌術後に骨髄内リンパ腫から静脈血栓塞栓症を発症したと考えられた2例	荻野崇之	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
脾臓. 22(4):447-453	「肝臓診療ガイドライン」の使用状況に関するアンケート集計結果	山口幸二	消化器外科
日本外科感染症学会雑誌. 4(3):275-280(2007)	胃癌手術におけるSSI予防的抗菌薬投与方法による比較リスク因子の検討	岸健太郎	消化器外科
Cancer Sci. 98:1936-1942(2007)	Recombinant interleukin-12 and interleukin-18 antitumor therapy in a guinea-pig hepatoma cell implant model.	Ken Kodama	呼吸器外科
Surgery Today, 37:316-319(2007)	Surgical intervention for malignant fibrous histiocytoma of the lung	Maeda J	呼吸器外科
Jpn J Clin Oncol,37:90-5,2007	Surgical results of lung cancer with sarcoid reaction in regional lymph node	Tomimaru Y	呼吸器外科
Oncology, 72:234-42, 2007.	Prognostic factors for gefitinib-treated postoperative recurrence in non-small cell lung cancer.	Okami J	呼吸器外科
Clin Cancer Res. 14:677-84,2008.	Aberrant expression of Connexin 26 is associated with lung metastases of colorectal cancer.	Higashiyama M	呼吸器外科
Anticancer Res. 2008 Jan-Feb;28(1A):179-86.	Pretreatment with S-1, an oral derivative of 5-fluorouracil, enhances gemcitabine effects in pancreatic cancer xenografts	Okami J	呼吸器外科
Anticancer Res. 2007 Jul-Aug;27(4B):2241-9.	Human equilibrative nucleoside transporter 1, as a predictor of 5-fluorouracil resistance in human pancreatic cancer.	Okami J	呼吸器外科
Int J Cancer 2007 Mar 15;120(6):1355-63	Involvement of ribonucleotide reductase M1 subunit overexpression in gemcitabine resistance of human pancreatic cancer.	Okami J	呼吸器外科
日本医事新報(4328):93-94(2007. 4. 7)	CT上でGGOを示す肺病変の病理組織像	児玉 憲	呼吸器外科
CT検診. 14(2):96-100(2007)	小型肺癌に対する明確な縮小手術適応基準の確立に関する研究	児玉 憲	呼吸器外科
日本外科学会雑誌. 108(3):107-112(2007)	癌治療切除術後サーバイバンスの意義と問題点. 2.肺癌	児玉 憲	呼吸器外科
胸部外科. 60(9):800-805(2007)	術後胸腔内再発をきたした胸膜孤立性線維性腫瘍に対する胸膜肺摘除	三吉範克	呼吸器外科
肺癌の臨床MOOK2007-2008. 篠原出版新社293-306(2007)	悪性胸膜中皮腫に対する外科治療成績からみた治療戦略.	東山聖彦	呼吸器外科
呼吸器外科. [単行本](2007)	気管腫瘍. My Med(電子版). Http://mymed.jp/wiki/index.php/Category	東山聖彦	呼吸器外科
篠原出版新社. 165-177(2007)	悪性中皮腫に対する外科的療法. アスベストと中皮腫. (亀井敏明ら編著)	東山聖彦	呼吸器外科
日本呼吸器外科学会誌. 22(2)189-192, 2008.	分化度の異なる胸腺粘表皮癌2例の臨床病理学的検討	前田 純	呼吸器外科
胸部外科 60:19-24,2007.	全国アンケート調査による本邦の悪性胸膜中皮腫に対する外科治療成績	東山聖彦	呼吸器外科
外科治療 98(3)281-2,2008.	高齢者肺癌(80歳)に対する治療戦略	岡見次郎	呼吸器外科
Breast Cancer 15:115-116(2007)	Breast cancer: individualized diagnosis for tailored treatment.	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Ann Nucl Med 21:429-437(2007)	Predictive value of bone marrow accumulation of Tc-99m tetrofosmin for subsequent development of distant metastases in breast cancer.	Wakasugi S	乳腺・内分泌外科
J Cancer Res Clin Oncol 134:715-722(2007)	Histopathological assessment of anastrozole and tamoxifen as preoperative (neoadjuvant) treatment in postmenopausal Japanese women with hormone receptor-positive breast cancer: the PROACT trial.	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer 14:25-30(2007)	Sentinel node biopsy for breast cancer: technical aspects and controversies.	Motomura K	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer 14:350-353(2007)	Intraoperative imprint cytology for the diagnosis of sentinel node metastases in breast cancer.	Motomura K	乳腺・内分泌外科
Int J Clin Oncol 13:8-11(2008)	No increase of breast cancer in Japanese women who received hormone replacement therapy: overview of a case-control study of breast cancer risk in Japan.	Komoike Y	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer 15:5-7(2008)	Histopathological criteria for assessment of therapeutic response in breast cancer (2007 version).	Komoike Y	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer 14:9(2007)	The omission of axillary lymph node by sentinel node biopsy.	Koyama H	乳腺・内分泌外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床外科 62:917-922 (2007)	再発乳癌に対する化学療法	稲治英生	乳腺・内分泌外科
外科治療 96:369-372 (2007)	非浸潤性乳管癌	稲治英生	乳腺・内分泌外科
コンセンサス癌治療 6:36-37 (2007)	術後薬物療法選択; St. Gallenコンセンサス	稲治英生	乳腺・内分泌外科
コンセンサス癌治療 6::123-125 (2007)	乳癌	稲治英生	乳腺・内分泌外科
In:これからの乳癌診療2008-2009(園尾博司監修) 26-30 金原出版、東京 pp26-30 (2008)	術前療法後の乳房温存療法	稲治英生	乳腺・内分泌外科
臨床と研究 85:32-34 (2008)	外来化学療法の実際 乳癌	稲治英生	乳腺・内分泌外科
日本臨床 増刊号 6:185-192 (2007)	センチネルリンパ節生検の手法と臨床応用	元村和由	乳腺・内分泌外科
金原出版、東京、pp29-40 (2007)	In:乳癌リスクからみたホルモン補充療法の治療指針(佐伯俊昭、本庄英雄、編)	菰池佳史	乳腺・内分泌外科
カレントセラピー 25:8-12 (2007)	手術法の縮小化	小山博記	乳腺・内分泌外科
J Neurosurg. 107:578-585 (2007)	Induction of glioma cell migration by vitronectin in human serum and cerebrospinal fluid.	Fukushima Y	脳神経外科
Int J Gynaecol Obstet. 99:249-50 (2007)	Endoscopic third ventriculostomy during pregnancy.	Maruno M	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo). 47:165-70 (2007)	Expression of WT1 protein and correlation with cellular proliferation in glial tumors.	Maruno M	脳神経外科
Ann Nucl Med. 21:109-13 (2007)	Crossed cerebellar diaschisis: apositron emission tomography study with L-[methyl-11C]methionine and 2-deoxy-2-[18F]fluoro-D-glucose.	Maruno M	脳神経外科
in 小児中枢性系疾患の画像診断2008(東京医学社) 39 増刊号:pp465-466. 小児内科2007	脳内悪性リンパ腫	田村雅一	脳神経外科
Clin Nucl Med.32(9):716-8 (2007, Sep)	Abdominal Tuberculosis: peritoneal involvement shown by F-18 FDG PET	Hamada K	整形外科
Cancer. 110(1):164-72 (2007 July)	Prognostic significance of CD100 expression in soft tissue sarcoma	Hamada K	整形外科
Clin Nucl Med.32(6):474-5 (2007 June)	F-18 FDG PET imaging of cervical tuberculous lymphadenitis	Hamada K	整形外科
ONCOLOGY REPORTS. 19(2):467-476 (2008 Feb)	Prognostic implication of SYT-SSXfusion type in synovialsarcoma: A multi-institutional retrospective analysis in Japan.	Naka N	整形外科
癌の臨床. 52(13):P857-866 (2007)	【骨転移治療の最近の動向】骨転移に対する手術治療の位置付けと今後の展開	荒木信人	整形外科
整形外科58(12):1649-55 (2007.11)	専門医試験をめざす症例問題トレーニング; 外傷性疾患	荒木信人	整形外科
核医学. 44(3):291-2 (2007.10)	中・下咽頭癌における、治療前とCRT後のFDG-PETを用いた原発部病変評価の有用性について.	濱田健一郎	整形外科
関節外科. 27(3):319-325 (2008.3)	骨軟部腫瘍におけるFDG-PETの有用性とFDG集積の機序	濱田健一郎	整形外科
越智隆弘編 最新整形外科学大系 第20巻骨・軟部腫瘍および関連疾患 東京 2007年 109-117	悪性骨腫瘍切除後の再建	荒木信人	整形外科
越智隆弘編 最新整形外科学大系 第20巻骨・軟部腫瘍および関連疾患 東京 2007年 431-434	淡明細胞肉腫	中紀文	整形外科
越智隆弘編 最新整形外科学大系 第20巻骨・軟部腫瘍および関連疾患 東京 2007年 435-437	放射線照射後軟部肉腫	橋本伸之	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hum Reprod in press. (2007)	Dual repressive effect of angiotensin II-type 1 receptor blocker telmisartan an angiotensin II-induced and estradiol-induced uterine leiomyoma cell proliferation.	Takeda T	婦人科
Prostate Cancer and Prostatic Diseases 10 001-008	Bicalutamide 80mg combined with a luteinizing hormone-releasing hormone agonist (LHRH-A) versus LHRH-A monotherapy in advanced prostate cancer: findings from a phase III randomized, double-blind, multicenter trial in Japanese patients.	M Usami	泌尿器科
Asian Pacific Journal of Cancer Prevention 8 003-012	The 5th Conference on Asian Trends in Prostate Cancer Hormone Therapy,	Michiyuki Usami	泌尿器科
癌と化学療法 34 589-595	進行前立腺癌に対するMAB療法の費用対効果分析	宇佐美道之	泌尿器科
臨床泌尿器科 61 327-333	腎部分切除術	木内 利明	泌尿器科
泌尿器科紀要 53 113-115	腎リンパ管腫瘍の1例	木内 利明	泌尿器科
日本臨床 65 557-561	前立腺癌 基礎・臨床研究のアップデート 緩和医療	目黒 則男	泌尿器科
癌と化学療法. 34(7):1023-1026(2007)	頭頸部癌 I. 拡大手術と縮小手術の比較	吉野邦俊	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 医学書院(東京). 79(5): 165-172(2007)	口腔癌術後の咀嚼・嚥下	赤羽 誉	耳鼻咽喉科
日気食会報. 58(2):112-118(2007)	当科における進行下咽頭癌の治療戦略	吉野邦俊	耳鼻咽喉科
MB ENT. 85:48-55(2008)	悪性疾患をうたがう顔面および頸部所見—中・下深頸部腫脹—	藤井 隆	耳鼻咽喉科
JOHNS. 24(3):477-480(2008)	喉頭全摘出術のための臨床解剖	上村裕和	耳鼻咽喉科
心療内科. 12(1):73-79 (2008. 1)	がん患者の心身苦痛と緩和ケアへの 理解・需要～患者のアンケートから～.	柏木雄次郎	脳神経科
Anticancer Res 27 2965-2971 2007	Dummy run for a phase II multi-institute trial of chemoradiotherapy for	Nishiyama K	放射線治療科
Strahlenther Onkol 183: 301-306, 2007.	Concurrent chemoradiotherapy for advanced pancreatic cancer: 1,000 mg/m ² gemcitabine can be administered using limited-field radiotherapy.	Yamazaki H	放射線治療科
European Journal of Radiology Extra. 64:39-43 (2007)	Transarterial and transvenous embolization of a parasplenic arteriovenous fistula	Nobuo Kashiwagi	放射線診断科
Jpn. J Intervent Radol. 22 (4): 449-452(2007)	動脈塞栓術を施行した腰椎生検後傍椎体動静脈瘻の1例	柏木伸夫	放射線診断科
Cancer Res 13(6): 4807-4816, 2007	One-step nucleic acid amplification for intraoperative detection of lymph node metastasis in breast cancer patients.	Tsujimoto M	臨床検査科
Artificial Life 14: 3-28, 2008.	Construction of a biological tissue model based on a single-cell model: A computer simulation of metabolic heterogeneity in the liver lobule.	Nakajima H	臨床検査科
日本臨床細胞学会雑誌. 46 (4): 203-210(2007)	乳癌のセンチネルリンパ節に対する術中捺印細胞診の有用性	南雲サチ子	臨床検査科
肥満と糖尿病 6(4): 629-631, 2007.	経腸栄養中のインスリン療法とは?	山崎知行	臨床検査科
高尿酸血症と痛風 15(1):10-14, 2007.	肥満	中島 弘	臨床検査科
内分泌・糖尿病科 24(5): 473-478, 2007.	メタボリックシンドロームにおける高尿酸血症の臨床的意義.	中島 弘	臨床検査科
メタボリックシンドロームと循環器疾患. 宮崎 滋, 代田浩之編, 中外医学社(東京): 68-74, 2007.10.	危険因子からみたメタボリックシンドローム [E]高尿酸血症	中島 弘	臨床検査科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
カラー版糖尿病学 基礎と臨床(門脇孝、石橋俊、佐倉宏、戸邊一之、野田光彦編) pp. 204-208, 西村書店, 東京, 2007	インスリンによる解糖系とその調節	中島 弘	臨床検査科
Histopathology 51 420-422 2007,9	Composite malignant pheochromocytoma with malignant peripheral nerve sheath tumor: A case with twenty-eight years of tumor-bearing history.	Iizuka N	病理細胞診断科
Annals of Surgical Oncology 14 2141-2149 2007,7	Expression of Hepatoma-derived growth factor is correlated with tumor recurrence of esophageal carcinoma.	Tomita Y	病理細胞診断科
Ann Hematol. 86 557-64 2007,8	Correlation between promoter hypermethylation of GSTP1 and response to chemotherapy in diffuse large B- cell lymphoma.	Tomita Y	病理細胞診断科
Visual Dermatology 6 736-739 2007,7	Mohs chemosurgeryでQOLの改善と完全寛解を得た有棘細胞癌の1例	北村昌紀	病理細胞診断科
麻酔56:404-408(2007. 4)	頭頸部悪性腫瘍再建手術における創傷治癒に関連する因子の検討	久利通興	中央手術科
日本臨床麻酔学会誌27: 246-252(2007. 5)	硬膜外術後鎮痛におけるモルヒネとフェンタニルの比較, およびドロペリドール併用による副作用抑制効果の検討	久利通興	中央手術科
総合臨床 56巻(増刊) 924-930 2007年	敗血症 DATAで読み解く内科疾患	烏野 隆博	臨床腫瘍科
Springer(Heidelberg); p. 61-67 (2008)	Disease of the Pancreas Current Surgical Therapy	Tanaka S	検診部
J Med Ultrasonics.34(2):119-120(2007)	Examination guide for ultrasonic image presentation and measurement of ophthalmic region.	Tanaka S	検診部
J.Med.Ultrasonics. 35(1):33-36 (2008)	Criteria for Ultrasound diagnosis of deep venous thrombosis of lower extremities.	Tanaka S	検診部
Jap. J. Med. Ultrasonics 35 (2): 210-218(2008)	Standard method for ultrasound evaluation of carotid artery lesions.	Tanaka S	検診部
最新医学. 62(6):1135-1141(2007)	超音波とがん画像診断	田中幸子	検診部
老年消化器病. 18(1):39-42(2007)	高齢者の膵臓癌	田中幸子	検診部
超音波医学 35(1):35-39 (2008)	下肢深部静脈血栓症の標準的超音波診断法	田中幸子	検診部
超音波医学35(2):202-218(2008)	超音波による頸動脈病変の標準的評価法(案)	田中幸子	検診部
医学のあゆみ. 222(13):1000-1005 (2007)	がん外来化学療法コンセプトシート:膵臓癌	井岡達也	検診部
最新医学62(3):145-151(2007)	がん診療の最前線 膵臓癌	井岡達也	検診部
消化器がん化学療法 即戦マニュアル(金芳堂).(2008)	膵臓癌の治療	井岡達也	検診部
消化器内視鏡. 19(7):984-990 (2007)	膵腫瘍に対するEUS-FNA診断	石田哲士	検診部
医学書院(東京)(2008)	USスクリーニング	田中幸子他編.	検診部
FEBS Letters. 581 (18): 3334-3340(2007. 7)	Tumor Immunotherapy using bone marrow-derived dendritic cells overexpressing Toll-like receptor adaptors	takashi Akazawa	研究所
Mol. Biol. Cell. 18: 1701-1709, 2007	Dynamic Regulation of p53 PML-nuclear body localization and cellular senescence by MORC3.	Inoue,N	研究所
Int Immunol. 19 (10): 1145-1155, 2007	Induction of NKG2D ligands on human dendritic cells by TLR ligand stimulation and RNA virus infection.	Akazawa,T	研究所

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J. Immunology 180 (4), 2054-2061 (2008)	Critical Roles of the p110(beta) Subtype of Phosphoinositide 3-Kinase in Lipopolysaccharide-Induced Akt Activation and Negative Regulation of Nitrite Production in RAW 264.7 Cells.	Inoue,N	研究所
J. Biochem 143 (3): 295-302 (2008)	IRAK-4-dependent Degradation of IRAK-1 is a Negative Feedback Signal for TLR-mediated NF-(kappa)B Activation.	Inoue,N	研究所
Cancer Res 67, 8095-8103.(2007)	Activation of insulin-like growth factor signaling induces apoptotic cell death under prolonged hypoxia by enhancing endoplasmic reticulum stress response.	Inoue, M	研究所
Oncogene 26, 7508-7516.(2007)	Significance of HIF-1-active cells in angiogenesis and radioresistance.	Inoue, M	研究所
Clinical and experimental immunology 148, 348-359.(2007)	Therapeutic effect of a new immunosuppressive agent, everolimus, on interleukin-10 gene-deficient mice with colitis.	Inoue, M	研究所
Cancer Sci 98, 1394-1401.(2007)	Hypoxia inducible factor-1 influences sensitivity to paclitaxel of human lung cancer cell lines under normoxic conditions.	Inoue, M	研究所
Kobe J Med Sci 53, 283-296.(2007)	Regulation of hypoxia-inducible factor 1 by glucose availability under hypoxic conditions.	Inoue, M	研究所
Diabetologia 50, 380-389.(2007)	Impaired insulin secretion in vivo but enhanced insulin secretion from isolated islets in pancreatic beta cell-specific vascular endothelial growth factor-A knock-out mice.	Inoue, M	研究所
Biochimica et biophysica acta 1771, 103-112.(2007)	Inhibition of transcellular tumor cell migration and metastasis by novel carba-derivatives of cyclic phosphatidic acid.	Inoue, M	研究所
Cell Host Microbe. 2:19-28, 2007.	Alternative entry receptors for herpes simplex virus and their roles in disease.	Miyoshi,J	研究所
Genes Cells. 13:79-90, 2008.	Establishment of cell polarity by afadin during the formation of embryoid bodies.	Miyoshi,J	研究所
Biochim Biophys Acta. 1778:670-691, 2008.	Structural and functional associations of apical junctions with cytoskeleton.	Miyoshi,J	研究所
J Immunol. 180:4774-4784, 2008.	Doc2 alpha and Munc13-4 regulate Ca(2+) -dependent secretory lysosome exocytosis in mast cells.	Miyoshi,J	研究所
Methods Enzymol. 438:131-139, 2008.	Analysis on the emerging role of Rab3 GTPase-activating protein in Warburg Micro and Martsof syndrome.	Miyoshi,J	研究所
Nat Rev Mol Cell Biol. 9:603-615, 2008.	Nectins and nectin-like molecules: roles in contact inhibition of cell movement and proliferation.	Miyoshi,J	研究所
Nephrology (Carlton). 2008 Jun 1. [Epub ahead of print]	Serine/threonine kinase, Cot/Tpl2, regulates renal cell apoptosis in ischaemia/reperfusion injury.	Miyoshi,J	研究所
J. Neurosurg. 107:578-585 (2007)	Induction of glioma cell migration by vitronectin in human serum and cerebrospinal fluid.	Fukushima Y	研究所
Eur. J. Cancer. 43:2747-2756 (2007)	Adipogenic, osteogenic and myofibrogenic differentiations of a rat malignant fibrous histiocytoma (MFH)-derived cell line, and a relationship of MFH cells with embryonal mesenchymal, perivascular and bone marrow stem cells.	Itoh,K	研究所
BMC Genomics. 8: 206-206 (2007)	A novel technique for measuring variations in DNA copy-number: competitive genomic polymerase chain reaction.	Kato, K	研究所
Clin. Cancer Res. 13: 7341-7356 (2007)	A gene expression-based molecular diagnostic system for malignant gliomas displays clinical utility, prognostic ability and reproducibility superior to histological diagnosis.	Kato, K	研究所
Journal of Vascular Research. 45: 343-349 (2008)	Gene expression during the development of experimentally-induced cerebral aneurysms.	Kato, K	研究所
Int. J. Surg. Pathol. 15: 277-281 (2007)	Nuclear expression of STAT5 in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas.	Kataoka, T.R.	研究所
Oncol. Rep. 18: 685-690 (2007)	Establishment of progesterone-sensitive cell line from human lung cancer.	Nishizawa, Y	研究所
慢性疼痛. 26: 189-205 (2007)	Effect of beta 2 adrenoceptor agonist, transdermal tulobuterol patch adding to budesonide turbuhaler inhaled therapy or budesonide turbuhaler inhaled therapy only on intractable chronic internal diseases such as chronic bronchial asthma related agony, ie widely considerable chronic pain in adult chronic asthmatic patients in a prospective, randomized, well-controlled, comparative study	Nishizawa, Y	研究所
Int. J. Vitam. Nutr. Res. 78: 21-26 (2008)	Methylcobalamin inhibits fibroblast growth factor-8 stimulated proliferation and induces apoptosis in Shionogi carcinoma cells.	Goto, G.H.	研究所
Int. J. Surg. Pathol. 16: 11-15 (2008)	Expression of p21Cip1/Waf1 and p27Kip1 in small cell neuroendocrine carcinoma of the uterine cervix.	Kataoka, T.R.	研究所
Cancer Sci. 98, 757-763, 2007	Loss of smooth muscle calponin results in impaired blood vessel maturation in the tumor-host microenvironment.	Yamamura, H	研究所

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
血液・腫瘍科 54(6): 694-701, 2007	発作性夜間ヘモグロビン尿症におけるクローン拡大の分子基盤	井上徳光	研究所
実験医学 25, 2114-2119 (2007)	癌と低酸素	井上正宏	研究所
実験医学 25, 2132-2138 (2007)	癌の低酸素応答	井上正宏	研究所
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 16,7,1437-42(2007)	Early- and late-onset breast cancer types among women in the United States and Japan.	Tsukuma H	調査部
British Journal of Cancer. 98,1602-1607(2008)	Sensitivity and specificity of lung cancer screening using chest Low-dose computed tomography	Nakayama T	調査部
Lung Cancer.56,2,207-215(2007)	CT findings of early-stage small cell lung cancer in a low-dose CT screening programme.	Nakayama T	調査部
Jpn J Clin Oncol. 37,544-53 (2007)	Hospital procedure volume and survival of cancer patients in Osaka, Japan: a population-based study with latest cases.	Ioka A	調査部
Jpn J Clin Oncol. 37,6,452-8 (2007)	Cancer survival trends in Osaka, Japan: the influence of age and stage at diagnosis.	Ito Y	調査部
Jpn J Clin Oncol. 38,2,146-57 (2008)	Partial cancer prevalence in Japan up to 2020: estimates based on incidence and survival data from population-based cancer registries.	Tabata N	調査部
Atherosclerosis. 190,216-23 (2007)	The relationship between serum total cholesterol and all-cause or cause-specific mortality in a 17.3-year study of a Japanese cohort.	Tanaka H	調査部
Cancer. 112,2166-72 (2008)	Long-term outcome of esophageal mucosal squamous cell carcinoma without lymphovascular involvement after endoscopic resection.	Tanaka H	調査部
Ann Int Med. 148,820-826 (2008)	Declining Incidence of Hepatocellular Carcinoma in Osaka, Japan, from 1990 to 2003.	Tanaka H	調査部
Jpn J Clin Oncol. 37,193-6 (2007)	Distinctive Change in Male Liver Cancer Incidence Rate between the 1970s and 1990s in Japan: Comparison with Japanese-Americans and US Whites.	Tanaka H	調査部
日本医師会雑誌, 137,2,302-307 (2008)	地域がん登録の現状と将来展望.	津熊秀明	調査部
日本臨床. 66,5,51-56 (2008)	胃癌の罹患率と死亡率の動向-日本と世界-	津熊秀明	調査部
最新医学. 62,3,20-8 (2007)	院内がん登録の機能と現状.	津熊秀明	調査部
日本医師会雑誌. 135,11,2385-2390 (2007)	大阪府における癌在宅死の動向	中山富雄	調査部
EBMジャーナル. 8,2,50-57 (2007)	肺癌検診の有効性評価にかかわる現況-エビデンスと論争点	中山富雄	調査部
肺癌. 7,47,941-943 (2007)	肺癌の臨床細胞診断の現状	中山富雄	調査部
厚生指標. 55,6,11-15 (2008)	効果的ながん対策による死亡減少効果の一試算.	井岡亜希子	調査部
JACR Monograph. 13,16-22 (2008)	がん対策推進計画策定における府県がん登録の役割.	井岡亜希子	調査部
日本公衆衛生雑誌. 54,236-45 (2007)	森永ひ素ミルク中毒被害者の青年・中年期(27歳~49歳)における死亡の解析.	田中英夫	調査部
チャイルドヘルス. 10,33-36 (2007)	HPVワクチン	田中政宏	調査部
厚生指標. 54,9-16 (2007)	麻疹流行における予防接種と免疫低下の関連性の分析-数理モデルによるシミュレーション-	田中政宏	調査部
インフルエンザ. 9,76-82 (2008)	インドネシア共和国における鳥インフルエンザおよびパンデミックインフルエンザ対策	田中政宏	調査部
日本公衆衛生雑誌. 54,246-53 (2007)	喫煙歴のある入院患者に対して退院後に行う郵送喫煙状況調査の返信行動とその関連要因.	谷内佳代	調査部

計 204件

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 石川 治
管理担当者氏名	マネージャー 高田哲男、同 三宅茂行、薬局長 榎 喜恵、医療情報部主任部長 松永 隆、放射線診断科主任部長 中西克之

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報部、中央手術室、看護部、放射線診断科、各診療科、病歴管理室	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に患者一カルテ方式とし、一つのID番号により病歴管理室で集中管理を行っている。 エックス線写真は、放射線診断科で集中保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務人事G	人事管理システムで保管
	高度の医療の提供の実績	医療情報部	コンピュータ管理他
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務人事G	年度毎にファイルに綴じて保管
	高度の医療の研修の実績	総務人事G	年度毎にファイルに綴じて保管
	閲覧実績	医事G	年度毎にファイルに綴じて保管
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事G	地域連携情報をファイルに綴じて保管
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画G 薬局	診療情報をファイルに綴じて保管 調剤情報をファイルに綴じて保管	
確規保則の第9条の2及び第1条の1各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部門	ファイルに綴じて保管 年度毎にファイルに綴じて保管 年度毎にファイルに綴じて保管 年度毎にファイルに綴じて保管
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	放射線診断科外来	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部門	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談室	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部門	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	放射線診断科外来 ファイルに綴じて保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	放射線診断科外来 年度毎にファイルに綴じて保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	放射線診断科外来 年度毎にファイルに綴じて保管
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	放射線診断科外来 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	中央手術科 年度毎にファイルに綴じて保管
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	中央手術科 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	中央手術科 年度毎にファイルに綴じて保管
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	中央手術科 年度毎にファイルに綴じて保管		

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 石川 治
閲覧担当者氏名	医療情報部主任部長 松永 隆、医事リーダー 藤井 薫
閲覧の求めに応じる場所	(窓口) 医事グループ (閲覧場所) 医療情報部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	90.7%	算定期間	平成19年4月1日～平成20年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		6,959 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,117 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		215 人
	D: 初診の患者の数		8,447 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (9) 名 ・ 活動の主な内容： インシデント報告書の分析、再発防止策の策定及び部署での確認周知、医療安全管理委員会事務局、医療審議委員会事務局、担当医療安全管理者会議の運営、医療安全研修の企画実施、医療事故発生時の現場対応及び指導、医療安全にかかる連絡調整	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
・ 指針の主な内容：医療安全管理に係る基本的な考え方 医療安全管理体制、医療安全研修に関する基本方針、インシデント報告、医療事故発生時の対応、医療従事者と患者の情報共有、患者からの相談への対応、医療安全マニュアルの作成更新、医療安全管理に関する指針の公開	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 17回
・ 活動の主な内容： 医療事故調査委員会・医療事故対策本部・医療支援チームの設置、医療事故・インシデント等が発生した場合の情報収集及び患者等への対応、重大な医療事故発生時の速やかな救命治療活動及び発生原因の分析、再発防止策の立案、指針の作成・見直し、医療安全管理マニュアルの作成・見直し、医療安全に関する職員の教育・研修の企画・運営・評価、指導の徹底と事故発生時の監視、医薬品に係る安全管理、医療機器の保守点検安全使用、病院機構本部・警察署・保健所・近畿厚生局・日本医療機能評価機構・社会保険事務局への報告	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 9回
・ 研修の主な内容： 造影剤慎重投与の運用、造影剤の副作用と緊急処置、個人情報保護、ジェネリック薬の基礎知識、MRI 検査の安全性	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 血糖測定器の機種統一、ミネリック5 (プレフィノンドタイプ注射器へ入れ替え、点滴・輸血確認のための任周防システム (PDA) 導入	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染防止に係る基本的な考え方、委員会等組織に関する基本的事項、職員研修に関する基本方針、院内感染報告制度、院内感染発生時の対応、指針の公開</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>細菌分離状況および耐性菌発生状況の把握、サーベイランスデータ報告（手術部位感染、血管内留置血流感染、尿道留置関連尿路感染症）の把握、重症感染症発生状況の把握、抗MRSA薬・カルバペネム系抗生剤使用状況の把握、アウトブレイク発生時の指揮指導および改善策の実施状況の調査と見直し</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 16 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>標準予防策、適切な防護具の着脱の演習、手洗い演習、安全機能付き留置針・翼状針の取り扱いの演習、マニュアルの読み合わせ、感染症法改正のポイント、抗菌薬の適正使用と周術期管理、インフルエンザの基礎知識と予防策、サーベイランス報告、リンクナース活動報告</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染症予防対策レポート提出期限の設定、抗MRSA薬・カルバペネム系抗生剤対象薬剤使用登録制度の導入、細菌検査室より菌検出一覧の提出</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 造影剤の副作用と救急処置、麻薬の取り扱い、抗がん剤の取り扱い、ジェネリック薬の基礎知識 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○・無) ・ 業務の主な内容： 医薬品の採用・購入、調剤室・外来及び入院部門における医薬品の管理、患者への医薬品の使用、臨床検査・画像診断部門における医薬品の使用、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品安全管理責任者は、医療安全部門と連携し、すべてのインシデント報告を受けている。その中から医薬品安全使用に関わるインシデントについて、医薬品安全管理委員会や医療安全担当者会議などで改善策を検討し実施している。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 除細動器を含むBLS(一次救命処置)、MRI検査の安全性 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 (○有・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置・補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置について実施した。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品医療機器総合機構から出される「医薬品医療機器等安全性情報」から情報を得ている。不具合のあった医療機器は厚生労働省に報告した。 	